

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 5年 8月 15日

氏名 久島 裕介

所属 基礎教育学 コース

指導教員名 小国喜弘

1. 研究課題 東北タイの農村地域における生活綴方教育の普及と展開についての現地調査

2. 報告する学術活動の実施期間 令和 5年 8月 3日 ~ 令和 5年 8月 7日

3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し

4. 学術活動

- 国外 国内
- ①英語論文公表
- ②研究科教員の研究プロジェクト参加
- ③フィールドワーク
- ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
- ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
- ⑥研究指導委託
- ⑦留学
- ⑧国際研修
- ⑨国際インターンシップ
- ⑩その他 (具体的に:)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ)の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ)の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	③
調査先機関 一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン、ノーンタカイ・ノーンメック・小中学校	
国名・都市名 タイ国コンケン県ノーンメック村	
具体的な活動 ノーンタカイ・ノーンメック・小中学校およびコミュニティセンターにおけるフィールドワーク	
活動期間(予定年月日)及び活動頻度 期間: 2023年8月3日～2023年8月7日 頻度: 移動日(3日、7日)を除く毎日	
調査先の概要 東北タイに位置するノーンメック村は、コンケン県県庁所在地から約30km、首都バンコクから約470km離れた農村である。世帯数は97世帯、人口は470人である。 東北タイでは農業だけで生活ができず、家族の一人以上が出稼ぎに行き、その送金で暮らしているのが現状であり、地元での仕事は日雇い労働が主で、収入は不安定な状態である。一般社団法人コミュニティ・4・チルドレンおよびノーンタカイ・ノーンメック・小中学校はこの村において、子どものための活動に取り組んでいる。	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本学術活動の目的は、日本における独自の教育方法である生活綴方教育が、海外（タイ）においていかに受容され、展開しているのかを明らかにすることであった。

1990年代の東北タイの農村地域では、農業だけで生活ができず、家族の一人以上が出稼ぎに行き、その送金で暮らしており、地元での仕事は日雇い労働が主で、収入は不安定な状態となっていた。筆者が博士論文の研究対象としている山形県児童文化研究会の教師・土田茂範は、このようなタイの状況を、高度経済成長期に日本の東北の農村が直面した現実と同様であると捉えた。そして土田は、日本の東北地方などにおいて1930年代ごろから発展してきた生活綴方教育を東北タイの教師に紹介した。生活綴方教育はタイの教育現場に受容され、著名な生活綴方教育実践記録である『山びこ学校』（1951年）がタイ語に翻訳され、副教材として採用された。

特に、本学術活動の調査先であるノンメック村では、多くの人が共同意識を高め、地域コミュニティの絆を強化することが、子どもを支える基盤になると考えられており、様々な活動が行われるなど、教育への強い関心を有している地域である。加えて、今回の渡航を支援してくれた一般社団法人コミュニティ・4・チルドレンは、土田などの取り組みを引き継ぎながら、ノンメック村で、子どもたちを見守り育てるために、行政区長（村長）や行政区議員をはじめ、村の人たち、ローカルスタッフとともに、子どもと大人が一緒になって取り組むコミュニティづくりを推進している。

以上を踏まえて本学術活動は、このノンメック村の学校であるノータカイ・ノンメック・小中学校を中心とする、村における教育の営みを調査した。具体的には、学校における教育実践、教材、地域のコミュニティセンターにおける取り組みを視察した。

土田がタイに伝えた生活綴方教育は、単なる作文教育にはとどまらなかった。生活綴方教育には、子どもたちにありのままの生活を見つめさせ、それを作文として書かせ、そしてその作文を仲間どうしで共有することを通じて、物の見方・感じ方・考え方を豊かにしていこうとするものであった。このような生活綴方教育の精神は、学校教育だけでなく、村のコミュニティセンターにおける子どもたちの活動の中にも見出すことができた。土田は日本の高度経済成長期において、生活綴方教育が農村を守ることができなかったという認識を有しており、その反省をもとに、タイにおいて教師と交流した。そうしたことを背景としてか、ノンメック村においては、農村が経済的に豊かになることよりも、村民が豊かに生活できることを優先して活動を進めていた。こうした活動は、月一回の市場（マーケット）に象徴的に現れていた。

また、資料調査を通じて、土田がタイの教育関係者らと交流した1992～94年度における「日タイ草の根教育交流」の報告書を入手した。この資料をもとに、土田がタイで何を学び、何を伝えたのかについての研究を進めることが可能になるであろう。

さらに、報告者は、村の教育活動のリーダーであるトゥックと対談した。その中で、報告者が研究しているサークル運動の研究成果を踏まえながら、草の根の活動の困難とその打開のあり方について協議した。